

開塾 15 年目 (Since 2003)。延登録者数 624 人。



【継業と人材創造塾 2017 Vol.20 Spin-off 特別企画】を開催します。

「メモの取り方を学んだことがある、その指導を受けたことがある、という人は意外に少ない。職員と共にメモ帳をつくり、一日の業務を終えたところで、各自がどんなメモの取り方をしたのかということを見比べると、実に千差万別であることがわかる。メモを取るのか取らないのかということについて、各自の自発性や自主性に任せていなかったか。メモを取る人は仕事への意識が高く、取らない人は仕事への意識が低いと、勝手に思い込んではいなかったか。」「自ら問い、自ら学ぶ ~メモの取り方を見直す~」と、連載中の『経営(継業)のツボ～転期に立つ経営の視座52』(『最新介護経営・介護ビジョン』2017年10月号)に記しました(裏面参照)。

【講師】 早川浩士(継業と人材創造塾主宰、(有)ハヤカワプランニング代表)

【内容】 ①メモの取り方を見直す ②課題(問題)の解消、課題(問題)の克服 ③知(P)覚(D)動考(C、A)
「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)を取り入れて行います。

【日時】 2017年11月10日金曜日(開場:18時30分、開始:19時、終了:21時)

【参加費】 3,000円(当日受付払) 【定員】 15人

【会場】 文京シビックセンター3階会議室A(112-8555 東京都文京区春日1-16-21)

【交通】 東京メトロ丸ノ内線・後樂園駅下車「4a」出口、南北線・後樂園駅、都営地下鉄三田線、大江戸線・春日駅下車「6」出口徒歩1分、JR水道橋駅下車「西口」出口徒歩8分

当日は、連載中の『経営(継業)のツボ～転期に立つ経営の視座』(『最新介護経営・介護ビジョン』2017年10月号、2016年8月号)を資料として用います。『経営(継業)のツボ』の連載開始は、2003年7月、『最新介護経営 介護ビジョン』の創刊号。第1回の「経営とは、“継承的”創業の繰り返してある」から第16回までの副題は、<古に学ぶ経営者の資質の磨き方>。第17回から第120回は<転期に立つ経営者の資質の鍛え方>。10年間・120回に渡って書き綴った連載は、『介護福祉経営士サブテキスト・人間カシシリーズ1 99の言葉の杖』と再編して日本医療企画から2013年6月15日(還暦を迎えた誕生日)に上梓。2013年7月号の第121回から副題を「転期に立つ経営の視座」と改め、2017年10月号で通算172回を数え、今なお執筆中。“転期に立つ”と記したのは、3年1期で見直される介護保険事業計画が、地域密着型サービスの登場などに象徴されるように1つの事業計画期間が終了するたびに新たな局面を作り出してきた歴史を踏まえると、介護経営にとって転機は転期と捉えるのが相応しいと考えたからである。

氏名	
住所	
所属(法人名等)	
連絡先(電話、Email等)	

受講を希望される方は、上記の欄に記入の上、本紙のFAX(03-3814-0687)をお願いします。